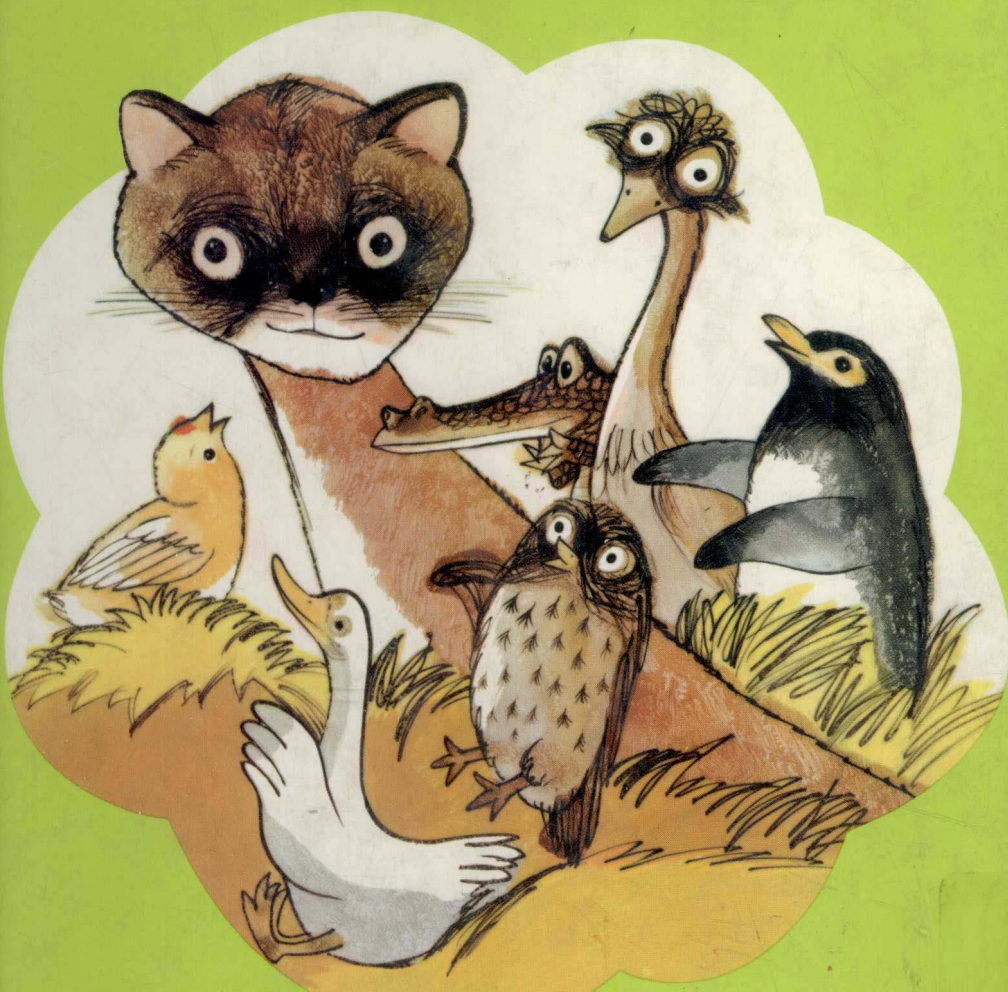


はらぺこプンタ

武井 博・作

赤坂三好・絵



913

武井 博

はらぺこプンタ

講談社 1977

80p 22cm (講談社の幼年創作童話11)

たけいひろし

はらぺこプンタ

定価580円

昭和52年 1月20日 第1刷発行

昭和55年 2月15日 第10刷発行

作 者 たけい ひろし 武井 博

画 家 あかまか みよし 赤坂三好

発行者 野間省一

発行所 株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 郵便番号112

電話 東京03(945)1111 (大代表)

振替 東京8-3930

印刷所 図書印刷株式会社

製本所 島田製本株式会社

© 武井 博・赤坂三好 1977 Printed in Japan

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。(児一)

8093-197813-2253 (1)

はっぺえプンタ

武井 博・作

赤坂三好・絵





はらぺこいたちの プン^ぶタ^んは、きょうも
ひとりでおさんぽです。

おさんぽと いても、ただ ぶらぶら

あるくだけでは ありません。

「なにか おいしそうな たべものは
ないかな。」

と、あちこち さがしながら
あるくのです。

はらぺこいたちの プン^ぶタ^んは、いつも
はらぺこで、にわとりを みても、すずめを
みても、にくの かたまりのように
みえるのです。

「ああ、おいしそうだなあ。」

プンタは、とりごやの にわとりを
みつめながら、ごくりと つばを
のみこみました。



でも、にわとりや あひるは、金^{かな}あみの

中^{なか}に いるから、たべられません。

空^{そら}を とんで いる すずめや からすは、

つかまえようが ありません。

だから、はらぺこプ^ぷン^んタ^たは いつも

はらぺこなのです。

グ^ぐ グ^ぐ グ^ぐ グ^ぐ。

プンタの おなかが、また なりました。



ある 日、^ひその プン^ぶタ^んが、森^{もり}の 中^{なか}で
おいしそうな たまごを みつけたのです。

「わあい、^{とり}の たまごだ。」

プンタは、とびあがつて よろこびました。

こんな おいしそうな たまごを

みつけたのは、なん^{じゅう}十日^{にち}ぶりでしょう。

プンタの 口^{くち}から、おもわず よだれが

こぼれました。



プン^{ふん}タ^たは、たまごに 口^{くち}を

ちかづけました。

その とき、プンタは はつと きが

ついたのです。

「そうだ、この たまごを だいて ひなを
かえせば、とりの にくが たべられるんだ。
たまには、おいしい とりにくも たべて
みたいからなあ。」

はらぺこプンタは、たまごを ひよいと
かたに かついで、はしりだしました。

プンタの すみかは、ふかい 森もりの
中なかです。森もりの 中なかの おおきな 木きの
うろに、ひとりですんで いるのです。

「まてよ。」

うろに ついた プンタは、

つぶやきながら たまごを おろしました。





「どうせ、たまごを だくなら、一つひとだつて
二つふただつて、三つみつだつて、おんなじだ。

そうだ、そう しよう。」

はらふんぺこプンタは、のほらや かいがんや
森もりの 中なかを かけまわつて、たまごを

あつめました。

とおくの どうぶつえんにも、

しのびこみました。

